

令和三年度 東京純心大学 看護学部 看護学科

学校推薦型選抜試験（第二回）【小論文】

試験問題

試験時間 90分

注意事項

- ・ 解答は、解答用紙に記入すること
- ・ 問題用紙及び下書用紙も、試験終了後回収する

受験番号

令和2年12月13日

以下の文を読み、設問に答えなさい。

語彙力調査で判明したこと

朝日新聞社と共同で「語彙・読解力検定」を実施しているベネッセコーポレーションが、全国の高校生から社会人3130人を対象にインターネットで語彙力調査を行ったところ、語彙力が高かったのは、「読書量が多い」人、「新聞やネットでニュースをよく読む」人だったそうです。また、家族との会話の少ない人より「よく会話をする人」のほうが、SNSやメールをやらない人より「SNSやメールを利用している人」のほうが、語彙力が高いこともわかったといえます。やはり、インプット&アウトプットの積極性が大事だということです。

世代間で知っている語彙にかなりズレがあることもわかったそうです。高校生がよく知っている語彙には、「デイスる（けなす）」「イミフ（意味不明）」「きよどる（挙動不審な動きをとる）」「ぼちる（ネット通販で購入ボタンを押す）」「りよ（了解）」といった省略語が多く見受けられました。

短い文字数で言葉をやりとりするなかで、省略語が増えているのもわかります。ただ、「了解」と言っても2文字で済みます。それすら「りよ」のようなかたちにしてしまうのは、省略というよりは仲間うちだけで通用する「隠語」のような感じなのでしょう。

一方、親世代はよく知っているけれど、高校生の多くが知らないと答えたのが、「阿漕」^{あこぎ}、「イデオロギー」^{きたん}、「忌憚」などの言葉でした。

こういう差異を知るのは大事で、『**違いを知る**』**ことが相手への理解のきっかけになります。**

高校生には高校生にとって快適な会話のネットワークがあり、そこで通用している語彙の束があります。一方、大人は社会経験を積むなかで社会的、常識的な語彙のなかで生きていて、高校生にとってはまだ馴染みのない言葉をたくさん知っています。

家族でよく会話をする人のほうが、しない人より語彙力があるという傾向も見られました。**異世代間のコミュニケーションは、新しい語彙、共有語彙を増やしていくことにつながります。**

親世代が子どもに今わせて新語を使おうとする必要はほとんどありません。変に子どもに媚びた印象を与えることが少なくありませんし、若者言葉は流行り廃れが激しいものだからです。そうではなく子どもの脳を刺激するような語彙、知的な語彙をふだん使うことで、友人同士の語彙のプール以外でも快適に泳げるようにしてあげることが大人の役割ではないかと思えます。

それは知性を磨く機会になっているか

電車に乗っても、喫茶店に行っても、現在はほとんどの人がスマホと向き合っています。SNSで人とつながるところには意見交換がありません。

すから、あなたがち悪いことではないと私は思います。

ただ大事なのは、つながり方です。

毎日の生活のなかで何時間も関わり合っているものが、自分の知性を磨く機会になっているでしょうか。自分を向上させる有意義な時間になっているでしょうか。

一日どれだけの時間スマホに向かっていて、どれだけの語彙を、どれだけの知識を増やすことができたでしょうか。2〜3時間だとすれば、新書が1冊読めてしまう時間です。1か月で30冊の本が読める。それに匹敵するだけのことができていますか。そういう意識をもっているかどうかで、知識量に大きな差が出ます。

スマホでニュースやさまざまな情報、あるいは電子書籍を読むのもいいのですが、しっかり覚えたいことには定着させる工夫が必要です。いちばんいいのがアウトプットを強化すること。誰かに話してみる、何かに書いてみる。実際に使ってみることで自分のものにしませう。

「SNS疲れ」が話題になることも増えています。自分を摩擦させるようであれば、思いきってそこから離れてみてください。

語彙力が身につくことによさは何かといえ、言葉を手に入れることによって、物事を明晰に認識できるようになること。その状況を対象化して捉えられるようになること。その結果、強くなれることです。

そして、知性を身につけるとは、一つの狭い世界だけに囚われなくなることです。

知性を身につけるといのは、気取った話をすることや、わけ知り顔で蘊蓄を並べることではありません。生きていることをより豊かにする、力強くすることだと私は思っています。

出典 齋藤 孝 著 『文脈力こそが知性である』 KADOKAWA 二〇一七年

設問

著者の主張を要約し、それについてあなたの考えを、一〇〇〇字以内で記述しなさい。